



中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.9 2013年12月19日発行

一年を振り返って

丁度一年になります。私たちの多くは昨年 11 月、中部横断自動車道の北杜市側についてそれ以前の想定地域の南東側に新たに 2 ルート AB 計画を新聞報道で知らされました。文字通り寝耳に水と言える出来事でした。

慌しく話し合い、新ルート沿線住民の会設立準備会を重ね、反対運動に立ち上がりました。厳寒の 1 月 12 日高根農業改善センターに 280 名余の参集を得て「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」の設立総会を開き高速道路建設に反対し国道 141 号線の整備改良を求める決議を採択し、地元での署名活動から始めました。この署名活動は甲府駅前、池袋、新橋駅頭でも行い 3 ヶ月余りで一万筆を超えるものとなり国、県、市等に提出することができました。カンパへのご協力も頂きました。改めて厚く御礼申し上げます。

10 回(北杜市)の国交省による地元説明会の一方的な説明に対して多くの疑問、質問が出されましたが、国交省自らが唱導する住民との合意形成を図る必要があるとする「ガイドライン」からは程遠くお粗末極まりないものに終始しました。

会発足直後から週 1 回の定例運営委員会は 50 回を超え、時に応じ機に照らし対策を練ってきました。

私たちの意見を直接届けたいとその場を再三再四要求しましたが、無視されたまま 4 ヶ月が過ぎた 6 月下旬「B 案が適当」とされました。

直ちに関東地方小委員会に報告されるということでしたが、6 ヶ月を経た今日まで開催されないままです。

この間 9 月に道路住民運動全国連絡会事務局長橋本良仁氏をお招きした講演会席上「まだまだ始まったばかり、運動はこれからです」と励まされ、八ヶ岳南麓に高速道路はいらないの決意を新たにしました。

「荒れ狂う嵐の日にも時は経つ」私たちは時間をむなしく失っているのではなく価値ある時間を獲得していると確信しています。皆様への感謝と共にこの一年を終わることといたします。

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会

<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>

<連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260

— 八ヶ岳南麓に高速道路はいらない、国道 141 号の改良整備を！ —

活動報告

11/2 甲府河川国道事務所と意見交換会

今年1月の住民の会発足以来はじめて甲府河川国道事務所担当者と沿線住民の会・運営委員との意見交換会が開かれました。双方の意見は平行線でしたが、一度で終わらせるのではなく継続していくことが双方で確認されました。12/18 2回目の話し合いが行われます。

甲府河川事務所の見解

これまでのプロセスを説明し、意見をもらって役立つことがあれば反映させたい。WGの結論を関東地方小委員会で覆すことは通常あり得ない。北杜市の活用検討委員会は、WG付帯事項の「継続して地元住民の意見を聞く仕組み」に成り得る。精一杯応援する。

沿線住民の会

新ルート決定の経緯が不明。「南麓地域での整備に異論」の「南麓」も地域的にどこなのか曖昧。WGに提出した資料に作為があり、掲載されなかったものもある。中部横断道活用検討委員会は「B案前提」で、住民の意見を広く聞く組織になっていないのは問題だ。山梨県側には国交省の言う「地域の課題」はないのではないか。

11/19 中部横断道活用検討委員会へ意見書を提出

関東地方小委員会で審議もされていない中、新ルート「B案前提」で議論が進められている「活用検討委員会」はあまりにも拙速で、地域住民の反対を抑えて進めても地域の活性化につながらないとする意見書を北杜市へ提出しました。

提出時の話し合いで、北杜市の活用検討委員会の役割は「B案」の既成事実化をはかっていこうという姿勢がはっきりしました。活用検討委員会の先走った開催にはこれからも強く抗議していかねばなりません。なお意見書は後日、会の要請を受け入れて活用検討委員会の委員へ郵送されました。

市の担当者

「活用検討委では中部横断道ありきでの検討、新ルート反対の意見書は配布資料として取り扱わない」、「国からはWGの決定がほぼ最終決定だと聞いており決まっていないのは具体的なルートととらえている。市として意見をまとめるのが活用検討委員会の役割」。

沿線住民の会

「委員へ意見書を配布してほしい」「市長はなぜB案が適当との提言をしたのか。住民の声を聞いていない。市長は市民との対話の場を設けてほしい」「B案前提という枠をつくらなくて、住民の多様な意見を聞く機会を設けてほしい」と要請。

◎北杜市活用検討委員会へ意見書を提出した他の団体

- ・中部横断自動車道八ヶ岳南麓の会
- ・八ヶ岳南麓景観を考える会
- ・大泉町下井出東組高速反対対策委員会
- ・とおせんぼ
- ・北杜市市民の会

1/14 石田委員長との面談決定！

沿線住民の会では今年1月以来、関東地方小委員会の石田委員長との面談を求めてきましたが、国交省の拒否にあって実現しませんでした。しかし、沿線住民の会の石田委員長への直接の働きかけによってようやく実現する運びとなりました。国交省から関東地方小委員会やWGに提出された資料には作為的な操作が加えられ、歪曲されて伝えられていたことはこれまで多くの住民が指摘するところです。直接石田委員長に地元住民の声を伝えられることは大変意義深いものがあります。私たちの切なる思いを声にして、石田委員長に届けたいと思います。

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会傍聴メモ

11月28日の第3回活用検討委員会は一部の委員さんから、

- ・ B案はまだ決定していないのにこの委員会は何のためにあるのか。
- ・ 高速道路をつくって地域がダメになるという意見が多数になったらどうするのか。
- ・ 国の公聴会と同様に、この検討委員会も形式にすぎず、我々は刺身のつまではないのか。
- ・ 高速道路の壁は、農業にとってダメージになる。
- ・ この道路に対する長野県側の意向はどうか、静岡県に出ることを期待しているのなら、長坂に結ぶのはおかしい。長野県とセットで考えるべきだ。
- ・ 高速道路ができていい事例の紹介ばかりだが失敗例はないのか。などなど。

大山委員長の

- ・ 地元の方は見慣れた田園風景の価値を評価していないように見える。雄大な山岳景観も大事だが、手前の田園風景の価値は非常に大きい。
- ・ 北杜市は都市計画地域に入っていない。予期せぬ開発が入ってきても規制できない。などの発言も注目される。

この委員会は所詮国交省が敷いたレール、何の期待も持たないけれど、議論が具体的になればなるほど高速道路そのものへの疑問も出てくることでしょう。(K. M)

活用検討委員会のパブリックコメントについて

市の説明によると

- ・ 日にちは未定だが、12月中に開始する予定。期間は1ヵ月間。
- ・ 詳細についてはホームページで発表するが各支所の窓口でも閲覧できるようにする。
- ・ パブリックコメントは街づくりのビジョンに反映させていく。
- ・ B案が前提なので、コースについての意見などは反映させられない。

沿線住民の会からはパブリックコメントで提出される新ルートに反対などの意見も、住民の意見としてすべて活用検討委員会の委員の方に報告してほしいと要請しました。

9・8に行われた橋本良仁さんの講演を収録したDVDお譲りします。

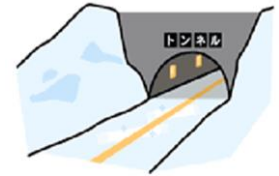
1000円(実費+カンパ)送料別、0551-47-6260 まで

「インフラ整備の財源は厳しい」と北杜市長

12月6日 NHK の「ヤマナシ QUEST」で「笹子トンネル事故から1年」が放映された。「インフラが老朽化しつつあるという実態を日本中に知らしめることになった象徴的な事故。何が変わったのか？管理する中日本高速道路はどんな再発防止策が？トンネルは、国や県が管理するもの以外に市や町も管理している。調査が始まった北杜市の事例をもとに課題に迫る。」という番組だった。

番組の中で白倉市長は「(安全は) 予算には代えられない。点検だけはちゃんとしていきたい。人口減少、財政が厳しい」と話していた。山梨県内には175本のトンネルがあり、市町が管理している33本のトンネルは維持管理が大変で、北杜市の大平トンネルの点検だけでも800万円の経費がかかったと報道された。インフラ整備はいま重要な課題であり莫大な費用の負担をどうするのか、限られる財源の中、中部横断自動車道建設の時ではないと思う。

「番組に意見を送ろう」とよびかけ、沿線住民の会や下井出東組のメンバーからも提出されたが放映された意見も文中の一部だけ、中部横断自動車道の部分はカットされていた。



(北杜市60代女性の意見)

笹子トンネルから1年。誰も責任を取ろうとしない現状に腹が立ちます。造った責任。管理する責任。整備する責任。そうした責任なくして社会資本が成り立っているなんてひどすぎます。

(富士吉田60代男性)

笹子トンネル事故からの教訓。それは、今後重点的に点検を行わなければならないということ。

笛吹市40代男性

「造るのは自分たち。メンテナンスは他の人たちがやる」そう考えていたのでは？ 造りっぱなしの発想はやめよう。

(北杜市70代女性)

今の時代は、残されたインフラを大事に使って自然と共生する生き方を選ぶ時。知恵をしばれば、地域の活性化だってできるでしょう。

(北杜市男性)

今後、私たちは限りある財源の中から本当に必要なインフラに優先順位をつけていかなければならない。しかしそれは、一般市民がインフラを真剣に考える良い機会では？ 造るから繕(つくる)う。そんなモットーに移る時。

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルートを歩く(3)

12・7長坂 IC から堤山・旭山まで

長坂 IC から西へ1キロ、広い田園の中を中央高速道路が貫いている。ここがジャンクションの予定地、ここから新ルートに沿って堤山・旭山に向かって8キロのコースを歩く。小春日和の中、参加者総勢25人は「八ヶ岳南麓に高速道路は通させない」というのぼり旗を先頭にして東に向かう。「中部横断道絶対反対!」という横断幕を掲げている家の前で記念撮影。大八田から五町田を抜けると大泉町、「八ヶ岳南麓を横断する高速道路反対」という立て看板が多く見られる。下井出地区東組の立て看板だ。油川にかかる小さな橋を渡ると高根町西割。静かな森の中には別荘が多くある。歩き続け、コース最上部の高根 JA や郵便局のある通りにでて下ると終点堤山のふもとへ到着。食事タイムには支援者からのお汁粉・トン汁のおもてなしや差し入れのパンがあり一同感激。「八ヶ岳南麓の景観と人々の生活、中部横断高速道新ルートがそれらの多くを破壊する」「長坂インターから堤山まで遠い距離のように感じてきたが歩いてみれば案外近い」「地域住民の強い反対の意思表示があれば国交省も高速道路を作ることはできない」等の話が出され、中部横断道新ルートに反対する意思表示の大切さを確認しあい元気をもらって解散した。

投稿

12月7日、中部横断道の予定ルートを25人ほどで歩いた。ジャンクションが予定されていると言われる秋田郵便局の北=大八田?から、北割のぼくちの前を通過して、堤山のふもとまで、約8キロ。途中、絶対反対の大きな横断幕を家の壁に垂れ下げている家があって、皆で感動して記念写真を撮ったり。それにしても集落がなく、人家もぼつぼつ。それも新しい家が多く、圃場整備された田、畑と森が目立つ。相手もちゃんと研究している事をうかがわせた。

駒、北、富士、八と眺めは360度良く、つくづく良いところに住んでいるな、やっぱここなら死ぬるな、ここに散骨して欲しいと思った。高速が出来たら、きっと日本一眺めの良い道になる事は間違いないだろう。「一度走ってみたいネ」と言ったら、笑ってくれた人もいたけど厳しい目で僕を睨む人もいた。冗談を言うのはほんとに難しい。

到着点の堤山の界隈は丁度、レインボーラインとクロスするところ。市長はここにICの設置を国土交通省に要望している。なにやら市長はこの近くに山林を所有しているという噂。そしてトンネルを掘ってR141を越え津金と結ぶ計画。

2時間ほど歩いたので、お昼。近くの家で、トン汁とお汁粉をご馳走になる。何と25人が用意されていた。白菜の漬物も出て、これがちょうど食べごろ。旨かった。材料費はもちろん、その手間たるや考えただけで、僕などは気が遠くなる。誰でもが出来る事ではない! 「ご馳走さま」そして「ありがとう」

その家の南側に面した居間から見える甲斐駒の雄姿は見事。住んでいる人に言わせれば、「だから、ここを求めたんだ」と。

ICが出来た時の景観を想像するだに、まっこと寒々しい限り。 (高根町 阪田)

国道141号線を走ってみたら




12月9日運営委員会の前に、国道141号線を沿線住民の会運営委員+下井出東組のメンバー+道路の専門家のをせた3台の車で走り、どのように改修整備したらよいか研修を行いました。

今回は1回目、皆で共通した、改修後の道路をイメージできるようにすることを目的に、まずは調査、危険な場所のピックアップ（狭い、急カーブ、急坂、歩道が無い、交差点など）、拡幅したら影響が出る住宅などの戸数(概算)を調べました。

おいしい市場を起点に、時折降りてはみんなで確認しあいながら県境まで走りました。調査後は、コーヒーゼロ円という看板に魅せられて入ったお店でケーキとコーヒーをいただきながらのミーティング。実際に走ってみると、「141号の改修整備でOK」という気持ちがあります。ますます強くなりました。刑事事件ではないけれど、「現場をみることの大切さ」を感じました。次回はイベントとして企画できたらと思っています。

大泉町下井出地区東組の活動紹介

下井出東組22世帯で「高速反対対策委員会」を立ち上げ、立て看板設置や署名活動を始めて一年がたちます。この間、東組独自のチラシを新聞折り込みするなどの活動をしてきましたが、現在は下井出のみなさまへ一年間の経過報告と東組の生活の一部を漫画にしたニュースを戸別訪問して配っています。12/24にはケーキやアルコール付きの会議を予定。隔週火曜日を定例会とし10月より共同代表制で運営しています。新ルートを歩こう「長坂ICから堤山まで」は沿線の会と共催でした。

参考図書のご紹介

國分功一郎著 幻冬舎新書

「来るべき民主主義」¥780
＜小平市都道328号線と近代政治哲学の諸問題＞

住民運動の課題と可能性
など、学ぶべきことが多い
と思います。

.....

商店等のカンパ缶回収によるカンパ総額**103,784円**になりました。

12/9 カンパ缶の設置を快く引き受けて下さっていた店舗のカンパ缶を回収したところ103,784円になりました。缶を開けながら一喜一憂、10万円以上のカンパにメンバー一同大感激でした。お店のみなさん、カンパして下さったみなさん、ありがとうございます。引き続きカンパ缶の設置をお願い致します。なお、振込や会員経由でカンパして下さったものについては、総会時にご報告させていただきます。ご支援ご協力ありがとうございました。

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会からのお知らせ

12月14日付にて正副会長が退任致しました。退任の挨拶は後日させて頂きたいとのことです。なお当面、会の運営は、1月末予定の総会まで、運営委員が分担して活動を行いますので、どうぞ引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。